

# アマモ場の再生を核とした総合的な漁場整備 ～ 幼稚仔から成魚まで生息できる、多様でつながりのある場づくり～

## ○ 岡山県東備地区の事例

### 【主な課題】

- ・魚介類の産卵・成育の場として、水質浄化の場として重要なアマモ場が、これまでの急激な沿岸環境の変化によって激減
- ・これに伴って漁獲量の減少や水質・底質の悪化が進行
- ・カキ養殖漁場の劣化に伴いカキの成長が(身入り)低下
- ⇒アマモ場の再生、幼稚仔保育場・成魚生息場の確保
- ⇒漁場の劣化防止とその改善が必要

### 【事業・取り組み】

- ・アマモ場再生のため、生育環境の改善  
アマモの生育環境を改善(①海底面嵩上げ、②消波施設)  
消波施設の設置による静穏域の創出  
魚礁の設置、種苗放流の実施、保護区域の設定  
漁場休止期における海底清掃(耕耘)の実施
- ・アマモ場造成技術の確立(光不足・波浪の軽減対策)
- ・漁協がアマモ場拡大の取組を昭和60年から継続
- ・東備地区特定漁港漁場整備事業(H14~H21)  
(消波施設、アマモ場造成(潜堤、地盤高改良、覆砂)、幼稚仔保育場、未成魚・成魚生息場の整備)

### 【事業効果】

- アマモ場造成等の豊かな漁場の創造により、カキ養殖、底びき網漁業の両立が可能となり生産性が向上
- ・海底耕耘等により養殖カキの成長早まる 3年生産⇒2年で出荷
- ・カキ生産量 2,119t(H11)⇒2,141t(H15)
- ・メバル・カサゴの漁獲量  
22t(H11)⇒20t(H15)⇒事業後84t(H22)へ
- 水質の浄化(チツソの除去)  
約700人分の年間汚水量の処理能力に相当

